

明光電子、評価ボード

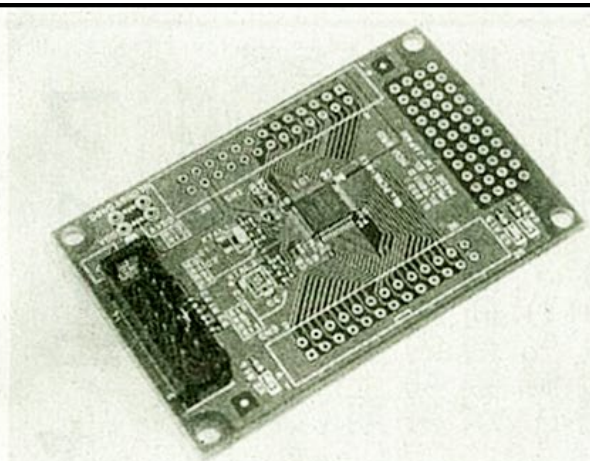
IoTエッジノード開発 アナログ機能内蔵

【横浜】明光電子（横浜市港北区、十川正明社長、045・471・2223）は、IoT（モノのインターネット）エッジノード開発用の評価ボード「RL78/H1DⅡ写真」を12月12日に発売する。センサーなどのアナログ機能を内蔵した1チップマイコンで構成。センサーの性能評価を容易にする。消

費税抜きの価格は5000円。センサーを扱う企業に拡販し、電子部品の量産提案などにつなげる。

ス製のE1デバッガー専用端子や外部拡張用の入出力端子、センサー実装用のスルーホールエリアも設けた。12月12日から東京ミッドタウン（東京都港区）で開かれる「2018トロンショー」で公開する。

大きさは縦47ミ×横72ミで、ルネサスエレクトロニクス製の48ピンLQFPマイコン「R5F11NGG」を搭載。内蔵するアナログ機能は、アナログフロントエンド（AFE）の開発に最



適な24ビットデジタル型A/Dコンバーター（アナログデジタル変換器）や8ビット/Aコンバーター（デジタル・アナログ変換器）、オペアンプ（演算増幅器）など。ルネサ